

学生アンケート調査結果の報告

2010 年 4 月実施新入生編

平野 緑・高橋 徹*

愛知みずほ大学人間科学部人間科学科

*愛知みずほ大学情報教育センター

本学では2000年4月から学生の意識調査を行ってきた。全学生を対象にした調査は過去3回実施したが、今回(平成22年度)は新入生だけを対象にしたアンケート調査結果である。

アンケート回答者数は以下の通りで、入学者のほぼ全員である。

表1 アンケート回答者数

	1 回生	編入生	合計	男	女	計
保健・養護	16	4	20	2	18	20
保健体育	24	6	30	24	6	30
医療クラーク	8	0	8	0	8	8
心理・カウンセリング	26	1	27	10	17	27
精神保健・社会福祉士	7	0	7	3	4	7
計	81	11	92	39	53	92

Q1. 本学（愛知みずほ大学）の名前を何で知りましたか。（複数回答可）

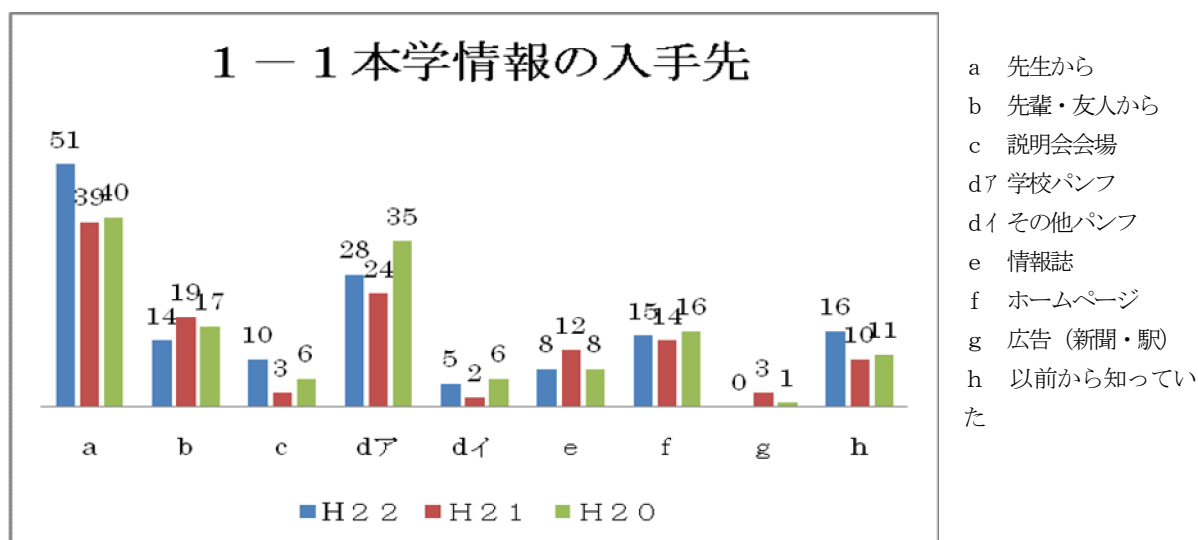


図1 本学の情報の入手先

本学（愛知みずほ大学）の名前の情報源は、例年同様、在学している学校の「先生からの情報」が一番多く半分以上の学生が答えている。次に多いのも例年同様、「学校でみたパンフレット」である。この2項目を8割以上の学生が答えている。「以前から知っていた」「ホームページを見て」「先輩・友人の薦め」、という回答はほぼ同数であった。一方、人数が少なかった

項目は「その他パンフ」「広告（新聞・駅）」という項目である。これらの項目は毎年少ない。

「以前から知っていた」という項目は、昨年より増加しているが、付属高校の出身者が増えているためだと思われる。昨年より増えているのは、「説明会会場」という項目で、10名という少数であるが、昨年の3倍以上となったのは、全体数が減っている中で増加している点では、注目すべきかも知れない。なんと言っても「先生から」が相変わらず多いのはやはり注目すべきである。

Q2. あなたが本学を選んだ理由は何ですか。（複数回答可）

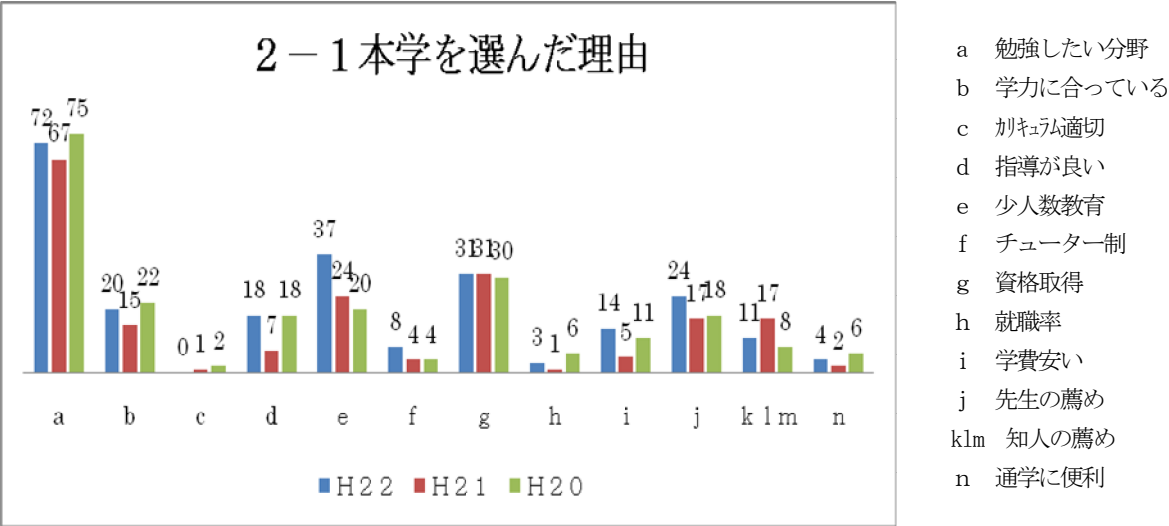


図2 本学を選んだ理由

ここでも全体としては、前年度とほぼ同様の傾向が見られた。学生が本学を選んだ理由としては、「自分が勉強したい分野である」と答えた学生が最も多く8割近い学生が答えている、続いて「少人数教育に関心を持ったので」、「目指す資格を取得するため」、「先生の薦め」「自分の学力に合っている」「指導が良い」という順で回答が多かった。昨年に比べて今回増えている項目は「指導が良い」「チューター制」と「学費が安い」である。特に目立つのは、「学費が安い」が3倍近い数になっているのは注目に値する。この不況下で学費の経済的負担の問題は大きいことが窺われる。

g「資格取得のため」本学を選んだと答えた学生たちが目指す資格は以下の通りである。

表2 コースごとの目指す資格

	養護教諭	保健体育	スポーツ 関連	医療関連	心理関連	介護士	社会福祉 士	合計
保健・養護	11							11
保健体育		7	1					8
医療クラーク				3				3
心理					1			1
精神保健・社会福祉士						1	1	2
合計	11	7	1	3	1	1	1	25

取得したい資格の内容は、教員免許では①養護教諭11名②保健体育7名。昨年より養護教諭と記入したものは減っている。

医療クラークコースの資格を目指す学生は昨年は、居なかったが、今年は3名いる。心理と福祉関係は3名である。

全体としては何らかの資格を取得したくて入学した学生の割合は一昨年、昨年と比較すると記入数では全体で27名が29名になり今年は25名と微減である。割合では27%である。

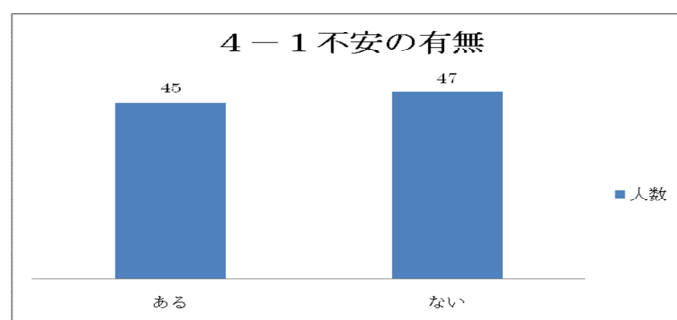
Q3. あなたは、入学したら参加したい部、サークルがありますか。

表3 参加したい部、サークルの内訳

学内		学外	
バスケ	1	アイスホッケー	1
テニス	2	弓道部	1
バレー	3	手芸部	1
軽音部	3		
陸上部	1		
合計	10	合計	3

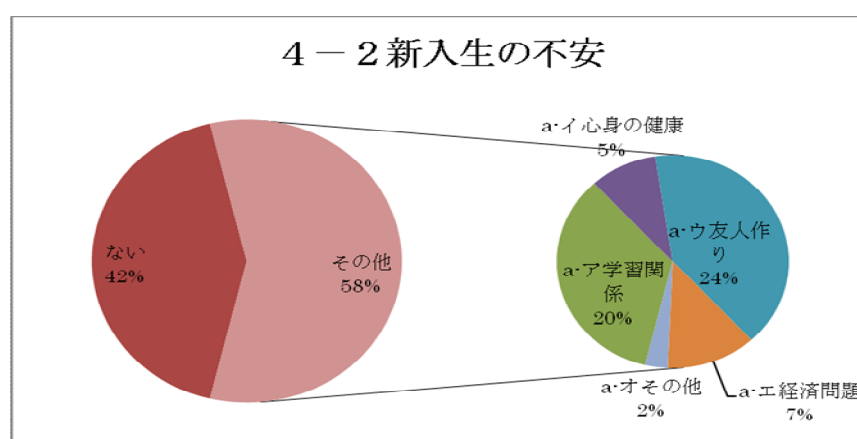
部活への参加意欲は一昨年、昨年15名が今年は13名（14%）である。年々減少している。本学は保健体育の教師へのコースもあり、以前はスポーツ関連の部活は入部者が多く、活発であった。しかし、部活動の現在の実態は、スポーツの団体競技の野球やソフトボール、サッカー、バスケット、バレーボール等は部員数が揃わず、運営に支障をきたしている。一人の学生がいくつも掛け持ち参加して対外試合に出ている実態がある。さらに学生会の役員をしようとする学生は部活動をする学生が多く、部活動だけでなく学生会活動も参加する学生がいなくなっており、大変心配である。今年(平成23年度学生会)は掛け持ちで役員を務めてもらい何とか学生会の役員の割り振りを成立させているのが実情である。

Q4. 現在、あなたが不安に思うことはありますか。



悩みを抱えている学生は49%である。その学生は複数の悩みを抱えている。件数は64件。昨年に比べて割合も減っているし、件数も99件から64件になっている。

図3 不安の有無



次にあると答えた内容を分析した（左図。右の小円は「ある」の内訳）。多い項目は、昨年と変わらず、「友人作り」、「学習面」が多い。

a ある
a-ア 学習
a-イ 心身
a-ウ 友人作り
a-エ 経済
a-オ その他

図4 1年生の不安 内容

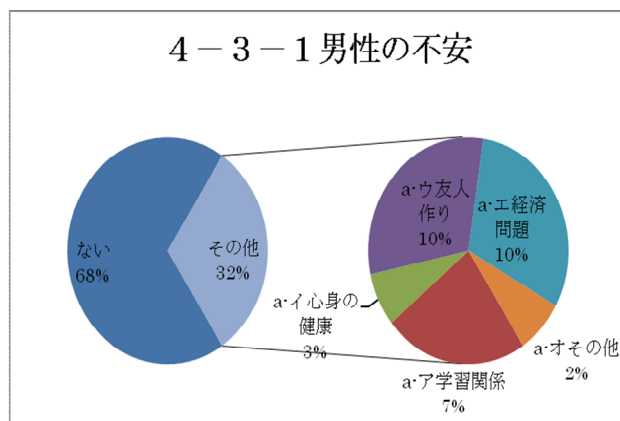


図5 男性の不安

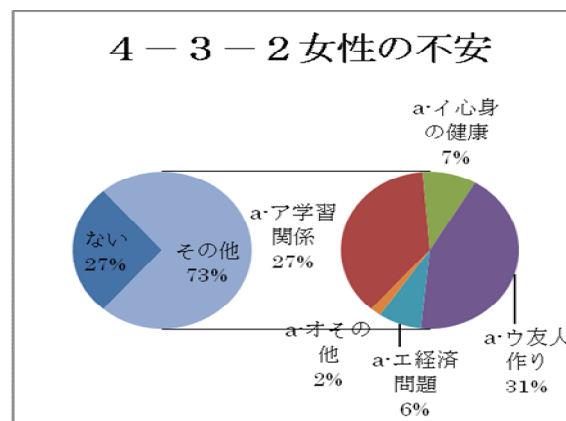


図6 女性の不安

男女別では、女性（51件80%）が男性（13件20%）より圧倒的に不安を抱えていることを表明している。その内容は、女性は友人作り、学習面が多く、男性は友人作りと経済問題である。

表4-1 不安項目ごとのコース別の件数

	学習	心身	友人	経済	その他	不安あり合計	コース人数
保健・養護	5	1	9	2	1	18	20
保健体育	5	2	6	2	0	15	30
医療クラーク	2	0	1	2	0	5	8
心理・カウンセリング	9	2	8	2	1	22	27
精神保健・社会福祉士	1	1	2	0	0	4	7
合計	22	6	26	8	2	64	92

不安項目をコースごとにみると、保健・養護コースと心理コースが多く、学習面と友人作りに不安を抱えている。2つのコースは女性が多く、女性の方が不安を表明している割合が高いのでこのように表れている。

不安の内容の具体的記述は46件で、ア「学習関係」35%、イ「心身の健康」2%、ウ「友人づくり」46%、エ「経済的問題」13%、オ「その他」4%である。

表4-2 「学習関係の不安」の内訳

授業についていけるか	10
資格の取り方	2
資格が取れるか	1
パソコンができない	1
社会人として働いていたので勉強についていけるか	1
1年のブランク	1
計	16

昨年と比較して記述件数は21→16と減っているが授業についていけるか心配しているものが相変わらず多い。具体的な科目の記入としては、毎年書かれていた英語はなく、パソコンができないと心配している学生がいる。編入生はブランクを気にしている。

次の問いの心身の不安について記入があったのは、1件のみで“よく体調を崩すので不安である”と述べられている。この項目は一番プライベートなことで記入しにくいので書かれていないだけで、心身に不安を抱えている学生が相当数いることは例年と変わらないと思われる。

表4-3 「友人作り」の不安の内訳

友人ができるか	7
他県からなので	4
人見知り	3
編入なので	3
知人がいない	1
友人が一人でもできるか	1
物事や他人に関心がない	1
様々な友人ができるか	1
計	21

「友人作り」には一番たくさんの記述があった。「他県からなので」、「編入生なので」と友人ができるか心配している。中で一人、「物事や他人に関心がない」とはっきり自分の性格を述べている学生がいる。入学後の学生の様子を見てみると、一人でパソコン室で過ごしたりしている学生がいるが、本人は寂しくないのだろうかと思っていたが、そもそも他人に興味がないという学生もいるようである。それを不安項目に記述したのは本人にとって、それは気になる点ではあるようだ。

表4-4 「経済的問題」の不安の内訳

両親に2度の入学金を払ってもらったので	1
バイトと勉強の両立	1
奨学金をもらえるか	1
学費の負担	1
2年目から不安	1
交通費が心配	1
計	6

「経済的問題」への記述は3件から6件と昨年より増えている。世の中の景気はずっと停滞しており、学費支払いの不安を抱えている学生は多くいると思われる。深刻な悩みである。バイトをせねばならない学生はたくさんいるようだ。実際、授業中に居眠りをしている学生に聞くと深夜のバイトをして寝ないで大学へ来たと言っている学生もいる。「両親に2度入学金を払ってもらったので」というのは編入生である。

表4-5 「その他」の不安の内訳

バイトと部活の時間調整、夜のバスの運行がない	1
通学に時間がかかる	1
計	2

「その他」の不安に関しては、2件のみ記述があった。「部活の後のスクールバスを出してほしい」とのことであった。「通学に時間がかかる」というのも毎年出ている不安である。「遠距離通学」という不安が昨年は3件あった。

編入生は様々な面で心配を抱えているようだ。学習面ではブランクを心配し、友人作りでは年齢の面からか不安をもっているようだし、経済面では親に2度も入学金を負担させてしまったと負い目を感じているようだ。編入生は11名で全体の12%だが、不安は15件表明しており全体(64件)の23%を占めている。

Q5. あなたは現時点で、卒業後の方向についてどう考えていますか

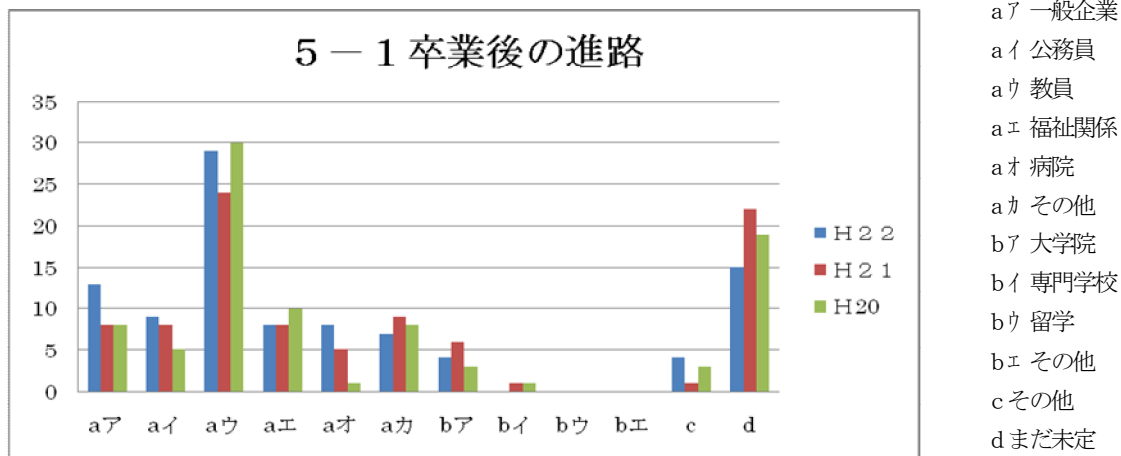


図7 卒業後の進路

卒業後の進路で「就職する」と答えた学生で、就職したい先を「教職」としている学生が昨年同様最も多い(29名)。全体の3割以上である。次に多い項目は一般企業、公務員、福祉関係、病院続く。表2の目指す資格のところでは教員資格は18名が目指していたが、ここでは29名が卒業後の進路を教師としている。棒グラフからもわかるように全体の流れは昨年と同様な傾向がみられる。

卒業後の進路を図示すると下図の通り。(右の円グラフは「就職する」の内訳)

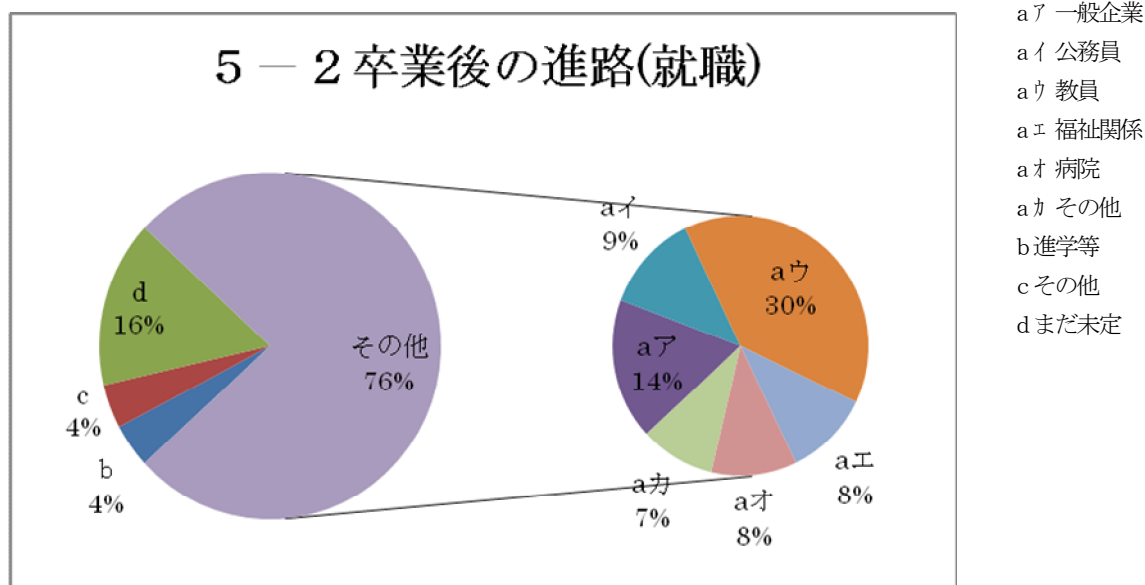


図8 卒業後の進路1年生

図8のその他76%というのは就職する(a項目)と答えた学生数74名を全体数97名(複数選択している)で割ったものである。右の円内は、その内訳である。右円の%を足すと76%となる。

以上、データ数が少なく統計処理の意味がない項目もあったが、図1の本学の情報入手先や図2の本学を選んだ理由、図7

の卒業後の進路等のアンケートの結果は昨年と同じような傾向を見せている。特に本学の情報入手先は、出身校の教師からが半分以上を占めている。身近な教師や友人知人のアドバイスが大きいことが伺える。一方少ないながらも受験生が本学の情報を入手するのは広告よりは情報誌、情報誌よりはインターネットからという傾向がずっと続いてきている。記述項目への記入は昨年より減っており、大学生活への期待感が減っているのだろうか。

参考：2005年4月実施学生アンケート調査の結果報告、瀬木学園紀要第1号—2007、瀬木学園紀要第2号—2008
瀬木学園紀要第3号—2009、瀬木学園紀要第3号—2009

- g. 目指す資格を取得するため（具体的資格……………）
- h. 就職率の高さ
- i. 学費が比較的安くすむ
- j. 先生のすすめ
 - その先生はどこの先生ですか（該当する項目を囲んで下さい）
 - ア. 高校の先生 イ. 短大の先生 ウ. その他（……………）
- k. 先輩・友人のすすめ
- l. 親・兄弟・親戚などのすすめ
- m. 兄弟・親戚・先輩・知人が在学・卒業している
- n. 通学に便利である
- o. 特にない
- p. その他……………

3. あなたは、入学したら参加したい部、同好会、サークル、団体などがありますか。

- a. 学内にある（具体的に……………）
- b. 学外にある（具体的に……………（既に加入済みを含む））
- c. まだわからない
- d. 特にない

4. 現在、あなたは不安なことや心配なことがありますか。

- a. ある（該当する記号を囲み、説明して下さい）
 - ア. 学習関係（具体的に……………）
 - イ. 心身の健康（具体的に……………）
 - ウ. 友人づくり（具体的に……………）
 - エ. 経済的問題（具体的に……………）
 - オ. その他（具体的に……………）
- b. 特にない

5. あなたは現時点で、卒業後の方向についてどう考えていますか。

- a. 就職する（該当する記号を囲んで下さい）
 - ア. 一般企業 イ. 公務員 ウ. 教員 エ. 福祉関係 オ. 病院 カ. その他（……………）
- b. 進学する（該当する記号を囲んで下さい）
 - ア. 大学院 イ. 専門学校 ウ. 留学 エ. その他（……………）
- c. その他
- d. まだ考えていない

6. その他に何か述べていたことがあれば、書いてください。